



ショークレスト 高校生来校

2月21日(木)、アメリカ合衆国シアトルにあるショークレスト高校から4人の生徒が神崎高校を訪問しました。

市川町の教育交流事業の一環ということで、書道の授業を体験してもらいました。筆で書くことに戸惑っていた生徒たちでしたが、隣に座った本校生と会話をしながら取り組む姿が見られました。最後は、自分たちで擦った墨で色紙に文字を書いて持ち帰ってもらいました。



本校生にとっても、外国人とのコミュニケーションに四苦八苦しましたが、それもいい経験になったと思います。

進路講話

2月18日(月)進路講話「3年生に聞く」が行われました。本年度、各自の進路実現に向けて取り組んだ3年生たちが、1、2年生を前に、思いを熱く語ってくれました。

1、2年生たちは、「大学・短大・看護」、「専門学校」、「就職」の三分野に分かれて、それぞれ3人の先輩たちの発表や面接の実演を披露してもらい、一人ひとりの質問に答えていただきました。

3年生はこの1年、それぞれの進路を実現するために、勉強や面接練習に力を入れてきました。先輩への語りにも、その努力への自負が表れていました。

就職分野では、面接の実演がありました。受験生役の先輩の、非常に高い完成度を誇りつつ、不自然でない応対ぶりに、後輩たちは驚きを隠せませんでした。それは、まさしくほぼすべての本校職員に面接練習を依頼して、自らを鍛えた努力のたまものです。立派な先輩方に少しでも近づけるよう、毎日の、一步一步の努力を、大切に積み重ねて行こうと決意した一日でした。



特色選抜

2月15日(金)、春の兆しを感じられる中、特色選抜が実施されました。本校入学を目指した15名の受験者が、緊張した面持ちで、小論文と面接に挑みました。

2月20日(水)午後、合格者が発表され、12名の中学生に一足早い春がやって来ました。発表の瞬間大きな歓声が沸き、受験番号や喜びの瞬間を撮影する受験者やご家族の姿が見られました。

4月には希望に胸を膨らませて神崎高校に入学することでしょう。一方で、悔し涙を流した受験者は、諦めずに神崎高校に再度挑戦してくれたらと思います。



ちょっと一言

◇本校の生徒は、ショークレスト高校生に声をかけるより本校生同士で会話することの方が多かったと聞きました。が、後で当該生徒のひとりに訪ねると、「英語が話せないのは、『間違えたらどうしよう』とか『アメリカ人じゃなくても、初対面の人に声をかけるの無理』と思ったからじゃないかな」と答えていました。生徒は、ちゃんとポイントをつかんでいるなと思いました。「間違えても叱られないチャンス」「初対面の出会いを提供するシカケ」として、これからも「International Friendship Members」の取組を進めていきたいです。3年生による進路講話では、「あの先輩の、あんな真剣な顔みたことない」とか「あと1年しかないな。今のままじゃあかんと思うた」などの感想を聞いて、本校生の素直さと可能性を感じました。これもひとえに保護者の皆様のご理解とご協力の賜物です。ありがとうございました。(N. A.)